

# 共済研究会シンポジウム

## 支え合う“協同の協同”という視野

～保険自由化・共済規制・TPP の経験、社会を運営する能力の共有～

### よびかけ

人びとの社会を運営する能力を縛り許さない、保険自由化と共済規制の先に、TPP（環太平洋連携協定）と協同組合つぶしが待っていました。TPPに反対する新たな協同も広がっています。しかし、これまでの経験が十分に共有されていませんし、経験の希薄化も進んでいます。一方で、保障産業であるべき保険のいっそうの変質とさらなる共済規制の強行についても、予断を許さない状況が続いています。協同の価値観を大切に、保険と共済の社会的役割を願うみなさんに、広く参加と対話を呼びかけるものです。

2017年

**12/2** (土) 13:30～17:30 (13:00 開場)

青山学院大学 (青山キャンパス) 6号館1階・第4号室

参加費用 1,000円 (会員・学生の方は無料です。) [資料準備のため、事前にお申し込みください。](#)

### 第1部 基調講演

内田聖子

(アジア太平洋資料センター共同代表)

「TPPから日欧EPAへの動向  
～いっそうの利権強行に対する  
経済民主主義～」

### 第2部 シンポジウム

前田健喜 (JC総研協同組合研究部長)

荒木紀彰 (全日本損害保険労働組合書記長)

新保ちい子 (生活クラブ風の村副理事長)

橋本光陽 (全国保険医団体連合会事務局次長)

(この他、自営業者の生活と健康を守る共済活動について発言者を予定しています)

参加申込 お名前、一般の方はご所属・お勤め先、ご連絡先(電話またはメール)をご記入の上、[kyousai-ken@hotmail.co.jp](mailto:kyou sai-ken@hotmail.co.jp)までご連絡ください。



フェイスブックでも情報発信中です。「共済研究会」で検索してください。

<https://www.facebook.com/kyousaikenkyukai>

共済の火を消してはならない！ パート8

共済研究会シンポジウム 「支え合う“協同の協同”という視野

～保険自由化・共済規制・TPPの経験、社会を運営する能力の共有～

### 無法強化で乗り切ろうとする無法

今だけ金だけ自分たちだけ、やりたい放題の新自由主義によって、世界もこの国もいのちとくらしが危機にさらされ、耐え難いものになっています。行き詰まりながらも、金権・強権ファーストを強める日米二国間協定、「委員会の会合に関心を持つもの〔利権集団、多国籍企業〕を参加させることができる」とする日本・EU経済連携協定（日欧EPA）の交渉も秘密裡に進められています。その渦中から、“もうひとつのよりより世界”を求める胎動も始まっていますが、変革の動きもまた、危うさの中にあります。

### 安心して育ち暮らす“協同の協同”の広がり

ユネスコ（国連教育科学文化機関）は、2016年秋、「協同組合」を無形文化遺産に登録しました。このばあいの「協同組合」とは、“あらゆる種類と形態の協同組合”（国際労働機関ILO「協同組合の促進（振興）に関する勧告」2002年6月）です。法の有無や形態によってではなく、一人一票や民主主義、協同と地域社会への関与、協同組合原則とそれに準ずる実質を重視しています。日本では、法にもとづく協同組合だけでなく、さまざまな協同自治組織が含まれることとなります。各地で生まれている地域社会づくりでは、協同組合や協同自治組織、広く協同の力が合流しています。それが自らを見直し、それぞれを強くしてもいます。「協同組合間協同」を“協同の協同”（協同組合、協同自治組織、広く市民と市民活動の、社会的協同）としてとらえる、その視野を自覚的に共有してこそ、協同の力を発揮できるということです。

### 社会とリスクの現状の“追認・再生産”か“改良・変革”か

「福祉社会」を支える人びとの協同の力があってこそ、「福祉国家」と世界平和を作り出すことができます。保険も共済も本来は、人びとの社会を運営する能力です。保険や共済が、社会とリスクの現状の「追認・拡大再生産」にとどまるのか、「改良・変革」、もうひとつの世界づくりに向かうのか。新自由主義のもと、保険自由化では、日本の保険市場は国民生活を二の次にし、米国など国際資本のもうけ口とされました。共済規制の保険業法改定（2005年）で、協同自治組織による多くの自主共済が廃止に追い込まれました。共済規制とのたたかいでは、協同組合と協同自治組織をつなぐ視野の共有と協同ができませんでした。その困難のもとでも、地域の協同によって240を超える自治体において、自主共済を守る意見書が採択されています。

### 何を求めていくのか、何ができるのか

人びとの社会を運営する能力を縛り許さない、保険自由化と共済規制の先に、TPP（環太平洋連携協定）と協同組合つぶしが待っていました。TPPに反対する新たな協同も広がっています。しかし、これまでの経験が十分に共有されていませんし、経験の希薄化も進んでいます。一方で、保障産業であるべき保険のいっそうの変質とさらなる共済規制の強行についても、予断を許さない状況が続いています。

協同の価値観を大切に、保険と共済の社会的役割を願うみなさんに、広く参加と対話を呼びかけるものです。